

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：健康生命薬科学科

資格：准教授

氏名：仁木 洋子

研究分野	研究内容のキーワード
化粧品科学, 皮膚科学, 色素細胞学	化粧品, 皮膚, メラニン色素, 光老化
学位	最終学歴
博士 (医学)	信州大学大学院工学系研究科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 岡山理科大学、化粧品概論の特別講義	2017年12月14日	「化粧品の安全性保障業務」について、新聞、ニュース記事なども用いた資料を作成した。基礎からわかりやすい資料を作成し、企業での実務内容について講義を行った。
2. 岡山理科大学、化粧品概論の特別講義	2016年11月26日, 2012年6月16日	「メラニン色素の科学」、「美白剤開発」について、新聞、ニュース記事なども用いたわかりやすい資料を作成し、基礎から企業での実務内容について講義を行った。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. アカデミックセミナー (中国広州) での講師	2019年10月21日	日本の化粧品原料メーカー合同セミナーにて講師としてリン脂質の化粧品応用について講演した。
2. アカデミックセミナー (中国上海) での講師	2018年10月21日	日本の化粧品原料メーカー合同セミナーにて講師として、両親媒性エステル油の表皮浸透促進技術について講演した。
3. 研究員教育	2006年4月~2007年5月	和研薬株式会社にて研究記録管理の体制構築を行い、教育係として、約10名の研究員の教育を行った。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
1. ホスファジール/シトル含有複合体	2018年4月25日	出願番号：2018-083875
2. ヒアルロン酸産生促進剤およびこれを配合した化粧品	2017年6月27日	出願番号：2017-094481
3. 化粧品	2017年5月11日	出願番号：2017-125832
4. ヒアルロン酸産生促進剤	2017年12月7日	出願番号：2017-234787
5. パルミトイル化によるチロシナーゼの修飾によるメラニン形成の調節	2012年12月20日	Application No. US61/740,048
6. Skin lightening compositions	2010年1月6日	Application No. PCT/US2011/020240
7. その他4件出願中 (2020年4月現在)		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 業務特別表彰受賞 (日本精化株式会社)	2019年2月12日	国内外学術発表による製品ブランドの向上
2. 技術教育出版主催セミナー での講演	2019年10月24日	アンチエイジング・抗老化化粧品のオーバービューとこれからの展開、一皮膚科学・商品トレンドをベースにトランスキサム酸のアンチエイジング効果について講演した。
3. 東京工科大学との共同研究	2018年4月2020年3月	トランスキサム酸による皮膚のアンチエイジング効果について
4. 第6回加計学園コスメティックサイエンスシンポジウム	2018年10月	両親媒性エステルによる水溶性化粧品有効成分の表皮浸透促進効果について講演を行った。
5. 宇都宮大学との共同研究	2018年10月2019年9月	表皮モデルにおけるセラミド産生の解析
6. 技術教育出版主催セミナー	2018年1月26日	美白化粧品研究開発のトレンドと最新技術セミナーにて、メラニン生成酵素チロシナーゼをターゲットとした美白コンセプトについて講演した。
7. 化粧品原料展示会CITE JAPAN2017での技術発表	2017年6月1日	両親媒性エステル、リポソームなどの浸透促進素材に関する技術発表を約100名の聴講者を実施。
8. インターンシップの主導 (日本精化株式会社)	2017年-2018年	3回のインターンシップを主導し、のべ4大学15名の学生に参加いただき、1名の採用に繋がった。
9. 同志社大学セミナーでの講演	2009年1月	メラニン色素生成量及び質へのtyrp-2遺伝子変異の影響について講演を行った。
10. 地域新生コンソーシアム研究開発事業「オミック	2006年-2007年	京都大学を中心とする産官学連携研究に参加。無細胞コ

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
ス解析技術による新規代謝動態解析装置の開発」		ムギタンパク質システムによる酵素合成とプロテオミクス解析を担当した。
11. 化粧品原料受託試験事業の立ち上げと運営（株式会社バイオリサーチ）	2003年-2005年	美白剤探索、有効性評価等の化粧品原料受託評価業を新規に立ち上げ、年間1200万円の売上を達成。技術営業から試験実施、報告書作成などを担当した。
12. 地域新生コンソーシアム研究開発事業「ガン中性子捕捉療法用に最適化デザインされたナノデバイスの開発」	2002年	京都大学が中心となる産官学連携研究、地域新生コンソーシアム研究開発事業「ガン中性子捕捉療法用に最適化デザインされたナノデバイスの開発」に登録研究員として参加。ホウ素中性子補足療法用デバイスの生体内動態の解析を行った。
4 その他		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
-------------	---------	-----------	-------------------	----

1 著書				
1. 最新皮膚エイジングメカニズムと高機能性シワ改善化粧品の開発	共	2020年6月（刊行予定）	シーエムシー出版	第23章「トラネキサム酸のアンチエイジング効果について」を執筆
2. 最新・化粧品開発のための美容理論、処方/製剤、機能評価の実際	共	2018年7月	技術教育出版社	第9章「メラニン生成酵素チロシナーゼをターゲットとする美白コンセプト」を執筆

2 学位論文				
1. 1-(2,4-Dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl)propane (DP) は、二重の機構でメラニン生成を抑制する。	単	2011年10月	藤田保健衛生大学（医学部）	キキョウランから見出された、1-(2,4-Dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl)propane (DP) は、抗酸化作用とチロシナーゼの分解促進によってメラニン生成を抑制する。

3 学術論文				
1. 紫外線、ブルーライト、近赤外線照射による色素斑形成の可能性とホスファチジルイノシトール高配合リポソームの抑制効果	共	2020年7月（刊行予定）	フレグランスジャーナル	ブルーライト、近赤外線によって、表皮細胞のメラノソーム取込みが増加することを見出し、これらの波長の光が色素斑形成の要因となりえることを示した。またホスファチジルイノシトールによって、表皮細胞によるメラノソーム取込みが抑制されることを示した。 遠藤香凛、仁木洋子、小寺啓貴
2. 生理活性脂質ホスファチジルイノシトールを高配合したリポソーム調整素材、PrimeLipid? PIの保湿・抗シワ・美白・抗酸化効果について	共	2020年1月	The K Beauty Science	生理活性脂質ホスファチジルイノシトールを高配合したリポソームによる、保湿、抗シワ、美白、抗酸化効果について細胞、ヒトレベルで示した。 Endo K, Niki Y, Kotera T, Iwasaki K, Ohashi Y,
3. 生理活性脂質ホスファチジルイノシトール含有リポソームのヒアルロン酸合成促進作用と保湿効果	共	2020年1月	フレグランスジャーナル	生理活性脂質ホスファチジルイノシトール含有リポソームの保湿、抗シワ、ヒアルロン酸合成促進作用について培養細胞、およびヒト試験で検討した。 仁木洋子、小寺啓貴、岩崎和弘、遠藤香凛
4. Phosphatidylinositol-rich Liposomes Enhance Hyaluronic Acid Synthesis in the Keratinocytes Through EGFR Signaling and Increase Skin Moisture	共	2019年9月	The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2019	生理活性脂質ホスファチジルイノシトール含有リポソームのヒアルロン酸合成促進作用について、レチノイン受容体及びEGFR受容体の双方を介するメカニズムである可能性を示した。 Niki Y, Tkotera T, Endo K, Iwasaki K, Ohashi Y,
5. Phosphatidylinositol-rich liposome as a novel candidate to prevent onset of solar lentigo initiated by UV light, Blue-light, or Near-infrared light	共	2019年9月	The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2019	ホスファチジルイノシトール高配合リポソームは、細胞内の抗酸化システムを活性化させ、色素斑形成を抑制する可能性を見出した。 Endo K, Niki Y, Tkotera K, Ohashi Y, Masaki H, 30, September, 1-2, October, 2019, Proceeding
6. サトウキビ由来イヌリン「Inulin-SC」の化粧品への応用	共	2019年6月	フレグランスジャーナル韓国	サトウキビ由来の多糖体であるイヌリンの化粧品としての特徴を示した。 岩崎和弘、勝間田祐貴、仁木洋子 (2019);6:122-125
7. 両親媒性エステル油剤による表皮、毛髪への有効成分の浸透促進及び有効成分の効果向上とそのメカニズム	共	2019年3月	フレグランスジャーナル	両親媒性エステルの表皮浸透促進剤に関する検討を行い、水溶性成分の表皮及び毛髪への浸透促進作用とそのメカニズムを解明した。 仁木洋子、勝間田祐貴、山川智史、釋氏梨沙 (2019);3:58-62
8. Tranexamic acid restores reconstruction of the dermal matrix through the activation of SIRT-1	共	2018年9月	The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2018	トラネキサム酸は真皮線維芽細胞のサーチュイン1遺伝子発現を向上させ、紫外線曝露によって低下したコラーゲン産生能、エラスチン関連遺伝子の発現を回復させる。 Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 18-21, September, 2018, Proceeding
9. Efficacy and Mechanisms of Action of the Skin Penetration Enhancer Bis-ethoxydiglycol cyclohexane 1,4-dicarboxylate (CH	共	2018年9月	The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2018	両親媒性エステルの水溶性成分の表皮浸透促進効果について検討し、水溶性成分トラネキサム酸の表皮浸透性と美白効果が向上することを示した。 Niki Y, Yamakawa S, Kikuchi R, Koyama M, Ohashi

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
-CA) on the Epidermal Penetration Rate of Water-Soluble Ingredients.				Y, Masaki H, 18-21, September, 2018, Proceeding
10. 浸透促進剤Neosolue-Aquilioによる表皮、毛髪への有効成分の浸透促進及び有効成分の効果向上そのメカニズム	共	2018年10月	フレグランスジャーナル韓国	両親媒性エステルCH-CAの水溶性成分の表皮浸透促進効果について示した。仁木洋子、勝間田祐貴、山川智史、釋氏梨沙 (2018);10:86-91
11. ナノサイズベシクルを容易に調製できるバイオサーファクタントプレミックス新素材	共	2017年3月	フレグランスジャーナル韓国	バイオサーファクタントについて、化粧品としての応用を示し、皮膚浸透性について解析を行った。福永悟史、橋本明宏、勝間田祐貴、仁木洋子 (2017);3:76-79
12. Omeprazole, a gastric proton pump inhibitor, inhibits melanogenesis by blocking ATP7A trafficking (査読あり)	共	2015年3月	Journal of Investigative Dermatol	プロトンポンプ阻害剤はATP7の細胞内輸送を阻害し、メラニン合成を抑制する。Matsui MS, Petris MJ, Niki Y, Karaman-Jurukovska N, Muizzuddin N, Ichihashi M, Yarosh DB. (2015)135(3):834-841
13. Heparin inhibits melanosome uptake and inflammatory response coupled with phagocytosis through blocking PI3k/akt MEK/ERK signaling pathways in human epidermal keratinocytes. (査読あり)	共	2014年6月	Pigment Cell Melanoma Res.	ヘパリンは、炎症反応に作用しケラチノサイトによるメラノソーム取り込みを阻害する。Makino-Okamura C, Niki Y, Takeuchi S, Nishigori C, Declercq L, Yaroch DB, Saito N. (2014);27(6): 1063-74.
14. Melanosomes are transferred from melanocytes to keratinocytes through the processes of packaging, release, uptake, and dispersion. (査読あり)	共	2012年4月	J Invest dermatol.	メラノソームは色素細胞から小胞体にパッキングされ放出されケラチノサイトに取り込まれる。Ando H, Niki Y, Ito M, Akiyama K, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M (2012);132 (4):1222-9.
15. 1-(2,4-Dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl)propane inhibits melanin synthesis by dual mechanisms. (査読あり)	共	2011年2月	J Dermatol Sci.	1-(2,4-Dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl)propaneは、複数の作用メカニズムでメラニン生成を抑制する。Niki Y, Yoshida M, Ando H, Wakamatsu K, Ito S, Harada N, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M. (2011);63(2):115-21.
16. Involvement of pigment globules containing multiple melanosomes in the transfer of melanosomes from melanocytes to keratinocytes. (査読あり)	共	2011年1月	Cell Logist.	メラノソームをパッキングしたpigment globulesが、メラノサイトからケラチノサイトへのメラノソーム移送に関与する。Ando H, Niki Y, Yoshida Y, Ito M, Akiyama K, Jin-Hwa K, Tae-Jin Y, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M (2011)1(1):12-20.
17. Modification of skin discoloration by a topical treatment containing an extract of Dianella ensifolia: a potent antioxidant. (査読あり)	共	2010年9月	J Cosmet Dermatol.	キキョウランから抽出物は抗酸化作用を持ち、皮膚への有効性を発揮する。Mammone T, Muizzuddin N, Declercq L, Clio D, Corstjens H, Sente I, Van Rillaer K, Matsui M, Niki Y, Ichihashi M, Giacomoni PU, Yarosh D. (2010) 9(2):89-95.
18. Keratinocytes in culture accumulate phagocytosed melanosomes in the perinuclear area. (査読あり)	共	2010年2月	Pigment Cell Melanoma Res.	培養ケラチノサイトに取り込まれたメラノソームは細胞核周辺に集積する。Ando H, Niki Y, Yoshida M, Ito M, Akiyama K, Kim J. H, Yoon T. J, Lee J. H, Matsui M. S, Ichihashi M. (2010) 23:129-33.
19. Improvement of the tumor-suppressive effect of boron neutron capture therapy for amelanotic melanoma by intratumoral injection of the tyrosinase gene. (査読あり)	共	2006年7月	Cancer Res.	アメラノティックメラノーマへのチロシナーゼ遺伝子導入はホウ素中性子捕捉療法の効果を増強させる。Morita. N, Hiratsuka. J, Kondoh H. Uno M, Asano T, Niki Y, Sakurai Y, Ono K, Harada. T, Imajo Y. (2006) 66(7):3747-53.
20. Intracellular composition of fatty acid affects the processing and function of tyrosinase through the ubiquitin-proteasome pathway. (査読あり)	共	2006年2月	Biochem J.	細胞内脂質組成がユビキチンプロテアソーム経路を介してチロシナーゼの分解に関与する。Ando H, Wen ZM, Kim HY, Valencia JC, Costin GE, Watabe H, Yasumoto K, Niki Y, Kondoh H, Ichihashi M, Hearing VJ. (2006) 394: 43-50.
21. Study on the compounds containing 19F and 10B atoms in a single molecule for the application to MRI and BNCT. (査読あり)	共	2006年10月	Bioorg Med Chem.	19Fと10Bを含むMRIイメージング及びホウ素中性子捕捉療法用分子の開発 Hattori Y, Asano T, Niki Y, Kondoh H, Kirihata M, Yamaguchi Y, Wakamiya T. (2006) 14(10):3258-62.
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 日本の医薬部外品研究トレンド～美白剤、しわを改善する化粧品～	単	2018年5月	The 4th international Functional Cosmetics	日本の医薬部外品（美白剤、シワ改善剤）の開発について、約100名の韓国化粧品メーカー研究者及び大

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
2. Regulation of Melanin Synthesis by S-Palmitoylation of Tyrosinase	共	2018年11月	R&D Innovation Forum 第28回日本色素細胞学会	学の化粧品研究者に講演した。 仁木洋子 2018年5月18日、成均館大学（韓国ソウル） 溝口昌子賞受賞講演 チロシナーゼの翻訳後脂質修飾（パルミトイル化）によるメラニン生成の調整機構について 仁木洋子 2018年10月14日、神戸、英語講演
3. Regulation of melanin synthesis by S-palmitoylation of tyrosinase.	共	2013年5月	International Investigative Dermatology,	Intersociety Young Fellow Collegiality Awards受賞セミナー パルミトイル化によるメラニン生成の調整について Niki Y 2013年5月15日、 The San Gallicano Dermatological institute、ローマ、英語口演
2. 学会発表				
1. Phosphatidylinositol-rich liposome as a novel candidate to prevent onset of solar lentigo initiated by UV light, Blue-light, or Near-infrared light	共	2019年11月27日	IFSCC2019国内報告会	Endo K, Niki Y, Kotera T, Ohashi Y, Masaki H, Ohashi, Hitoshi Masaki ポスター発表
2. Phosphatidylinositol-rich Liposomes Enhance Hyaluronic Acid Synthesis in the Keratinocytes Through EGFR Signaling and Increase Skin Moisture	共	2019年11月27日	IFSCC2019国内報告会	Niki Y, Kotera T, Endo K, Iwasaki K, Ohashi Y, ポスター発表
3. Phosphatidylinositol-rich liposome as a novel candidate to prevent onset of solar lentigo initiated by UV light, Blue-light, or Near-infrared light	共	2019年10月	31th IFSCC CONGRESS 2019	Endo K, Niki Y, Kotera T, Ohashi Y, Masaki H, 2019年9月30日-10月2日、ミラノ ポスター発表
4. Phosphatidylinositol-rich Liposomes Enhance Hyaluronic Acid Synthesis in the Keratinocytes Through EGFR Signaling and Increase Skin Moisture	共	2019年10月	31th IFSCC CONGRESS 2019	Niki Y, Kotera T, Endo K, Iwasaki K, Ohashi Y, 2019年9月30日-10月2日、ミラノ ポスター発表
5. トラネキサム酸は光老化モデル線維芽細胞の真皮マトリックス再生を促進する	共	2019年10月	日本化粧品学会	遠藤香凜、仁木洋子、大橋幸浩、正木仁 2019年6月28-29日、東京 口頭発表
6. Tranexamic acid restores reconstruction of the dermal matrix through the activation of SIRT-1	共	2018年9月	30th IFSCC CONGRESS 2018	Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 2018年9月18-21日、ミュンヘン
7. Tranexamic acid restores reconstruction of the dermal matrix through the activation of SIRT-1	共	2018年9月	30th IFSCC CONGRESS 2018	Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 2018年9月18-21日、ミュンヘン ポスター発表
8. UVA 照射により誘導した老化線維芽細胞に注目したトラネキサム酸の新規色素斑形成抑制作用	共	2018年8月	第36回日本美容皮膚科学会総会・学術大会	Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 2018年8月4-5日、東京 口頭発表
9. Bis-ethoxydiglycol cyclohexane 1,4-dicarboxylate (CH-CA)の皮膚及び毛髪への水溶性有効成分の浸透促進作用と有効性向上について	共	2018年8月	第36回日本美容皮膚科学会総会・学術大会	Niki Y, katsumata Y, Yamakawa S, Koyama M, Ohashi Y, 2018年8月4-5日、東京 口頭発表
10. Tranexamic acid restores reconstruction of the dermal matrix through the activation of SIRT-1	共	2018年12月	IFSCC2018国内報告会	Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 2019年10月21日、東京 ポスター発表
11. Efficacy and Mechanisms of action of the Skin Penetration Enhancer Bis-ethoxydiglycol cyclohexane 1,4-dicarboxylate (CH-CA) on Epidermal Penetration Rate of Water-Soluble Ingredients.	共	2018年12月	IFSCC2018国内報告会	Niki Y, Yamakawa S, Kikuchi R, Koyama M, Ohashi Y, Masaki H, 2018年12月21日、東京 口頭発表
12. Palmitoylation of tyrosinase regulates melanin synthesis through ubiquitination.	共	2014年9月	22th International Pigment Cell Conference	Niki Y, Fukata M, Fukata Y, Oku S, Okamura C, Takeuchi S, Wakamatsu K, Ito S, Nishigori C, Decleercq L, Yarosh DB, and Saito N. 2014年9月4-7日、シンガポール 口頭発表
13. Regulation of melanin synthesis by S-palmitoylation of tyrosinase.	共	2013年5月	International Investigative Dermatology	Intersociety Young Fellow Collegiality Awards受賞 Niki Y, Fukata M, Fukata Y, Oku S, Okamura C, Takeuchi S, Wakamatsu K, Ito S, Nishigori C, Dec

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
14. 3次元皮膚培養細胞を使った皮膚糖化モデルの検討	共	2013年5月	第12回日本抗加齢医学会総会	Iercq L, Yarosh DB, and Saito N. 2013年5月8-11日、エジンバラ ポスター発表 優秀演題賞受賞 一條遼, 八木雅之, 仁木洋子, 市橋正光, 米井嘉一 2012年6月22-24日、横浜 ポスター発表
15. チロシナーゼのS-パルミトイル化はその分解を制御しメラニン生成を調整する	共	2013年11月	第25回日本色素細胞学会	仁木洋子, 深田正紀, 深田優子, 奥慎一郎, 岡村千絵子, 竹内聖二, 若松一雅, 伊藤祥輔, 錦織千佳子, Lieve Declercq, Daniel Yarosh, 齋藤尚亮 2013年11月16-17日、大阪大学 口頭発表
16. Slaty mutation inverses the ratio of DHI and DHICA content of eumelanin in both mouse melanocytes and hair.	共	2012年9月	21th International Pigment Cell Conference	Niki Y, Hirobe T, Wakamatsu K, Ando H, Yoshida M, Ichihashi M and Ito S 2011年9月7-12日、ボルドー ポスター発表
17. Omeprazole (proton pump inhibitor) inhibits melanin synthesis accompanied by a decreased pH in the acidic cell compartment.	共	2011年5月	71th Society for Investigative Dermatology	Niki Y, Yoshida M, Ando H, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M 2011年5月4-7日、フェニックス ポスター発表
18. 1-(2,4-dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl)propaneは、複合的な機構でメラニン生成を抑制し、美白効果を発揮する	共	2010年6月	第10回日本抗加齢医学会総会	仁木洋子, 吉田雅紀, 安藤秀哉, Mary S. Matsui, Daniel B. Yarosh, 市橋正光 2010年6月11-13日、京都 ポスター発表
19. 1-(2,4-dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl)propane inhibits melanin synthesis by multiple mechanisms.	共	2010年5月	70th Society for Investigative Dermatology	Niki Y, Yoshida M, Ando H, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M. 2010年5月5-8日、アトランタ ポスター発表
20. Comparison of cultured Epidermal melanocytes from wild type mouse and its congenic, Slaty mutant mouse.	共	2008年5月	20th International Pigment Cell Conference and 5th International Melanoma Research Congress	Niki Y, Wakamatsu K, Ando H, Hirobe T, Ichihashi M and Ito S. 2008年5月7-12日、札幌 ポスター発表
21. The incorporation mechanism of p-Boronophenylalaninol (BPA-ol) into tumor cells -Relevance with an amino acid transportation system-.	共	2005年9月	12th International Conference on Boron Chemistry	Niki Y, Kondoh H, Asano T and Kirihata M. 2005年9月11-15日、仙台 ポスター発表
22. Comparison of cultured Epidermal melanocytes from wild type mouse and its congenic, Slaty mutant mouse.	共	2005年12月	第19回日本色素細胞学会学術大会	仁木洋子, 若松一雅, 近藤浩文, 広部知久, 伊藤祥輔 2005年12月3-4日、東京 口頭発表
23. Role of Glycosylation in Pheomelanogenesis : Effect of Glucosamine on Enzymic/non-enzymic Pathway.	共	2004年11月	第17回日本色素細胞学会学術大会	仁木洋子, 近藤浩文, 若松一雅, 田辺不二美, 伊藤祥輔, 三嶋豊 2004年11月29-30日、東京 口頭発表
24. The Incorporation Mechanism of p-Boronophenylalaninol (BPA-ol) into Tumor Cells.	共	2004年10月	11th World Congress on Neutron Capture Therapy	Niki Y, Kondoh H, Asano T and Kirihata M 2004年10月11-15日、ボストン ポスター発表
25. p-boronophenylalaninol (BPA-ol)の癌細胞内への取り込み機構—アミノ酸輸送系との関連性—	共	2003年8月	第1回日本中性子捕捉療法研究会	仁木洋子, 近藤浩文, 浅野智之, 切畑光統 2003年8月30-31日、京都 口頭発表
26. Future Analyses on The Actions of Boronophenylalanine(BPA) to The Dynamics of Melanin Monomers/Polymers Synthesis in Pigment Cells and Their Excretion into Culture Medium.	共	2003年12月	第16回日本色素細胞学会学術大会	仁木洋子, 近藤浩文, 若松一雅, 伊藤祥輔, 三嶋豊 2003年12月7-8日、名古屋 口頭発表
27. Interaction Between p-BPA and precursor of Melanin Prepared from Greene's Hamster Melanoma.	共	2000年10月	9th World Congress on Neutron Capture Therapy	優秀演題賞受賞 Takase M, Yoshino K, Kamiyo M, Niki Y, Kondoh H, Hiratsuka J and Mishima U. 2000年10月2-6日、大阪 ポスター発表
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
1. メラノソーム成熟におけるBACE2 パルミトイル化の役割	単	2015年	科学研究費若手研究（B）助成金額：3,510千円	メラニン色素生成の場であるメラノソーム成熟において、メラノソーム構造タンパク質のPMEL17を切断する酵素であるBACE2の翻訳後脂質修飾（パルミトイル化）が果たす役割を検討した。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	日本色素細胞学会（評議員）、日本化粧品学会、日本化粧品技術者会、日本美容皮膚科学会、日本研究皮膚科学会、日本動物実験代替法学会